

日韓両言語における諺の対照比較研究

— 語彙の構成に見られる男女の対立 —

金 秀 眞

1. はじめに

本稿は、日本語と韓国語における諺表現のうち、男性と女性に関する諺表現を構成する語彙を取り出し、それらの語彙に見られる男女間の特徴を明らかにするものであるが、語彙の出現数にみる特徴および語彙の構成内容の概観についてはすでに、金秀眞・浮田三郎(2002)「日韓両言語の諺に現れる男女の二元対立の諸相—表現に見られる語彙の構成を中心に—」で述べた。

ところが、紙数の都合上、各語彙の具体的な用例は取り上げることができなかつた。したがって、本稿では各語彙の具体的な用例をまとめ、より詳細な対照考察を行なうことにする。

2. 分析資料と研究方法

本稿で取り扱う基本資料としては、韓国の諺の用例は「俗談辞典」(李, 1980)を資料母体とし、必要な際には「우리말 속담 큰 사전(我が語の諺大辞典)」(宋, 1986)や「우리말 큰 사전(国語大辞典)」(ハングル学会, 1997)を参考資料として用いることにする。

一方、日本の諺の用例は「故事俗信ことわざ大辞典」(小学館, 1982)を資料母体とし、「故事ことわざの辞典」(小学館, 1986)を参考資料として用いることにする。

分析方法としては、両言語の男女に関する諺を構成する名詞の形を取っている語彙のすべてを抽出し、類型別分類を行なう。各語彙は便宜的ではあるが、大きく、動植物、衣食住、人、時空、身体、抽象および行為の六つの類型に取り分けて分析し、考察することにする。

3. 類型別分類による語彙の用例

3.1. 動植物を表す語彙

両言語の男と女に関する諺を構成する語彙のうち、動植物を表す語彙をまとめてみると次の表1のようである。

表1 動植物関連語彙 (出現頻度が二つ以上のものは、[] 内にその数を示す)

		韓国の諺		日本の諺	
		女性の諺	男性の諺	女性の諺	男性の諺
動植物	動物	암탉 ([3], 雌鶏) / 여우 ([2], 狐) / 강아지 ([2], 子犬) / 암소 (牝牛) / 암개 (雌の犬) / 쥐 (鼠) / 고양이 (猫) / 송아지 (子牛) / 개 (犬) / 까마귀 (烏) / 학 (鶴) / 산닭 (山の鶏) / 씨암탉 (種雌鶏) / 가랑이(虱の子) / 맨덩이 (根魚) / 동리 개 (村の犬) / 이 (虱) / 소(牛) / 범(虎)	장닭 ([2], 雄鶏) / 수캐 (=수코 [2], 雄犬) / 개 (犬) / 말(馬) / 나비 (蝶) / 기러기 (雁) / 이 (虱) / 봉 집 (蜂蝶) / 호랑이(虎) / 노루(獐) / 소 (牛) / 용마(竜馬) / 구더기(蛆) / 당나귀 (驢馬)	貓[7] / 蛇 ([5], =蛇の下地・毒蛇・蛇身・大蛇) /猿[3] / 犬 [2] / 狐[2] / 鹿 ([2], =秋の鹿) / 牛 / 脱兎 / 牛馬 / 馬 / 白魚 / 大象 / 鳥 / 鷄 / 雌鷄 / 牝鷄 / 家鴨 / 白魚 / 河豚 / 蛭	蛭[2] / 玉虫 / 蚤 / 牛の子 / 赤鬚 / 雄鷄 / 虱 / 蛆 / 虫 / 河豚
	植物	꽃 ([5], 花) / 호박꽃 (南瓜の花) / 목화 (綿花) / 십일홍 (十日紅) / 한줄의 생물 (一本の生物) / 개똥참외 (道端に生る真桑瓜)	아춧까릿대 (蓖麻の茎) / 머들잎 (柳の葉っぱ) / 살구꽃 (杏の花)	藤 / 本生りの夕顔 / 薔 / 花 / 柳 / 曲がり木 / 薊の花 / 古い木の桜木 / 黒木 / 芝栗 / 桃栗 / 酸漿 / 薔 / 菜種 / 大根種 / 茄子苗	松 / 杉の子 / 南瓜の蔓

両言語の男と女に関する諺を構成する語彙のほとんどは比喩の素材として働いている傾向にある。

(1) 動物を表す語彙

動物を表す語彙は、両言語とも女性に関する諺の方により多様な用例が見られる。

語彙の用例にみるように、両国の風土や文化の違いによって、語彙の構成においてもそれぞれ異なる要素が含まれている。特に、日本の諺では魚類を表す語彙が比較的多く見られることが分かる。これは日本が島国であるという地理的な特性によるものとして捉えられる。

まず、女性に関する諺を構成する語彙は、社会的に悪く評されている動物を表す語彙が相当多く、し出現頻度においても高く現れていることが指摘される。

一方、男性に関する諺を構成する語彙は、主体的なイメージまたは権威や勇猛を象徴する動物とされているものが大半を占めている。

ところが、語彙の構成上に見られる男女差別的な要素は韓国の諺の方により著しく現れている。特に、韓国の諺では動物の雌と雄を表す語彙が相当多く現れ、語彙の使用に当たって、男女差別的な思考が相当働いていたことを示唆する。

(2) 植物を表す語彙

両言語とも、女性に関する諺の方により多様な語彙の用例が見られる。

女性に関する諺を構成する語彙は、‘花’を表す語彙が圧倒的多数を占めており、それらの語彙は主に女性の外貌や女性の隷属性を象徴する。これに対し、男性に関する諺を構成する語彙は、極めて少なく、主に男性の主体性を象徴するものとして現れる。

3.2. 衣食住を表す語彙

衣食住を表す語彙は、類型別分類による語彙の全般を通して最も広い範囲にわたって多様な語彙の構成を示す。

下記の表2は両言語の男と女に関する諺を構成する語彙のうち、衣食住を表す語彙をまとめたものである。

表2 衣食住関連語彙（出現頻度が二つ以上のものは [] 内にその数を示す）

		韓国の諺		日本の諺	
		女性の諺	男性の諺	女性の諺	男性の諺
衣食住	衣服	속곳・단속곳 ([5], 下着) / 다홍치마 ([3], 紅色のチマ) / 샷갓 ([2], 笠) / 고쟁이(下着)/짚신(草履)/장옷 (頭から被る服) ¹⁾ / 고름 (チョゴリなどの結び紐) / 삼가래(麻の糸) / 치마폭 (チマの幅) / 치마짜리 (チマチャリ)	망건 ([6], 網巾) ²⁾ / 갓 ([3], 既婚者の冠) / 갓투 ([2], 冠の一種) / 상투 ([2], 既婚者の男の結い上げた鬘) / 망줄 (網巾の紐) / 통망자 (統涼網巾) / 겹칠릭 (二重となっている武官の制服) / 건대 (藜) / 갓끈 (冠の紐) / 망갓투 (冠の一種) / 장방이 (股引) / 베 (生地) / 망건편자(網巾を締めるのに使う狭くて厚い帯) / 망건 (冠の下にかぶる縲の一種)	着物[2] / 衣装[3] / 服 / 帯びの端 / 赤い湯巻 / 金の草鞋 / 腰巻 / 縲 / 縮緬	赤烏帽子 / 袴 / 下駄
	飲食物	밥 ([3], 飯) / 국거리 ([2], スープの俱) / 물 ([2], 水) / 달래 (ひめにら) / 시집밥 (嫁ぎ先の飯) / 친정밥 (実家の飯) / 아욱국 (葵スープ) / 된장(味噌) / 쌀(米) / 길성복떡(祭祀の餅) / 해산미역 (出産ワカメ) / 술 (酒) / 콩다유 (煎り豆) /	밥 ([4], 飯) / 술 ([2], 酒) / 국 ([2], 粥) / 김치국 ([2], キムチスープ) / 물 (水) / 계란 (卵) / 개떡 (小麦のあら粉餅) / 안주 (おつまみ) / 건더기 (俱) / 국물 (スープ汁) / 콩 (豆) / 콩가루(黄粉) / 콩밥 (豆飯) / 양식 (糧食) / 끼니 (決まった食事) / 고추장단지 (赤味噌の瓶) / 소금	煎り豆[2] / 米の飯[2] / 焼き餅[2] / 古酒 ([2]=酒) / 蟹節 / 塩物のすたり / 余り物 / 豆腐 / 梨 / 飯粒 / 葉汁 / 唐茄子 / 菜汁 / 牡丹餅の塩過ぎたもの / 蒟蒻 / 芋 / 南瓜 / 餛飩 / 蕎麦 / 大根 / 飯 / 汁 / 糠の崩	醃[2] / 酢[2] / 酒[2] / 朝酒 / 青菜 / 粉 / 団子 / 餅 / 茶漬飯 / 煎り豆 / お平の長芋 / 茄子 / 南蛮 / 小揚ぎ

		韓国の諺		日本の諺	
		女性の諺	男性の諺	女性の諺	男性の諺
衣 食 住	飲 食 物	복어(乾し明太)/고추(唐辛子)	(塩)/장(醤油)/좁쌀(粟)	れたもの/生餅/卵/糯米/欠 き餅/山茶/夏おはぎ/番茶	
	器 物	가마 ([3], 輿) / 주머니 ([2], 袋) / 보리방아 (麦を搗く臼) / 세간 (調度) / 매햄 (鞭) / 안경 (眼鏡) / 돈 (錢) / 널 (板跳びの板) / 술갈 (お匙) / 살림 (調度) / 기구 (器具) / 나무접시 (木の皿) / 접시 (皿) / 쇠 (鉄) / 장작불 (焚き火) / 떡두레 (餅一塊) / 주릿대 (刑罰に使う赤塗りの二本の棒) / 돌부처 (石仏) / 삼현육각 (三絃六角) ³⁾ / 지귀 (おむつ) / 요강시울 (尿管のふち) / 젓가락작 (箸) / 상 (お膳) / 죽젓광이 (お粥の掻き回し棒) / 접시 (皿) / 시루 (蒸籠) / 신개 (興) / 구슬 (珠) / 옛돌작 (石臼) / 유리 (ガラス) / 열녀전 (烈女伝) / 은가락지 (銀の指輪) / 함지박 (くりばち) / 귀용박 (釣瓶) / 꿀무 (指貫) / 바늘 (針) / 밑바진독 (底無き瓶) / 향아리 (壺) / 빗갈 (貸金) / 살림질친 (調度の元手) / 같은값 (同じ値)	돈 ([2], 錢) / 외 ([3], お墓) / 문 ([2], 分 け前) / 문 ([2], 門) / 배 ([2], 船) / 주머 니 ([2], 袋) / 매햄 ([2], 鞭) / 자루 ([2], 柄 杓) / 술갈 ([2], 酒代) / 붓 (筆) / 바가지 (ひさご) / 칼 (刀) / 비녀 (簪) / 날 (刃) / 그물 (網) / 도끼 (斧) / 책장 (本のべ -じ) / 패랭이 (竹編の傘) / 베개 (枕) / 용바위 (竜岩) / 짐 (荷物) / 나무 (木材)/ 대매 (一発鞭打ち) / 망치 (槌) / 흥두 깨 (綾巻) / 몽둥이 (棒) / 불송곳 (火の 錐) / 명거지조각 (帽子の肩身) / 불 (火)/ 화젓가락 (火箸) / 칼날자루 (柄) / 행 담 (小箱) / 자갈 (砂利) / 채갯돈 (高利 貸金) / 말뚝 (杭) / 송곳 (錐) / 판돈 (賭 博場の掛け金) / 자전거 (自転車) / 본전 (元値) / 담배목판 (タバコ入れの木製の 四角い盆) / 젓상 (祭床) / 총 (銃) / 담배 (タバコ) / 문실주 (門柱) / 울타리 (垣 根) / 호패 (号牌) ⁴⁾ / 선가 (船代) / 두레박 (釣瓶) / 밥그릇 (器)	身上[5]/錢百貫[3]/道具[2] /鏡[2]/金[2]/半身上/身 代の薬/敷銀/百の錢/三百 文/弓/玉の輿/錠/七つ道 具/持つべきもの/割れ物/破 れ物/繩切れの余り/磁石/鍋 の破片/鈴/火/笛/足駄/ 置き物/棒の木/囲戸裏の灰 /小袋/梁/敷き筵/鍵/大 黒柱/櫛り粉木/笛/鉄砲/ 錠/上がり樫/紅白粉/壺/ 黒板/鍋の尻/首のない石仏 /鈴/火のなき戸/売り物/鬼 瓦/琴箱/節季の悪鏡/道具 /敷金/鍋蓋/鍋釜/家の道 具//櫛り粉木/小刀/斧/ 鍋/鉄み/不祥の器/竹釘/ 行灯/重箱/千貫/借り物/ 財布の口/弾まぬ鞆/網蒲団 /糸/繩取りもち/金箱/白地 /一身代	箸[3]/簾[2]/ 冠/五車の書 /産(財産) /据え膳/金 [2]/三貫/錢 /帆/船/麦 の肥料/針/か めの破片/糸/ 腰の物/金の網 /障子/木仏 /金仏/石仏 /玉の杯底無き /箸/杭/釜 の前/大仏の柱 /大黒柱/金の 網/裸百貫/ 据え膳/冠/立 ち白/玉/瓦/ 五車の書/表 道具/帆の無き 舟/統飯

注: ここでいう住居関連語彙は、空間を表す語彙を除くものとする。

(1) 衣服

まず、韓国の諺の場合、女性に関する諺には、「속곳・단속곳・고쟁이」などのような下着を表す語彙がとりわけ多く、その他、女性の専用物のスカートを表す「치마(チマ)」が見られる。これに対し、男性に関する諺には「망건/갓/상투/당줄/통량갓/겹칠릭/갓끈/당감투/망건편자/당건」のような、かつての成人の男性たちの衣冠およびそれに付くものがとりわけ多く含まれている。男性に関する諺に見られるこのような語彙は、いずれも‘権力’や‘権威’を象徴するようなもので、女性に関する諺に組み込まれている語彙の構成とは確に違う様相を示していると言える。

一方、日本の諺の場合、韓国の諺に見られるような語彙の多様性は見られない。女性に関する諺には、主に衣装を表す語彙が現れており、それに対し、男性に関する諺には、帽子、緒、靴などの語彙が現れる。

(2) 飲食物

飲食物を表す語彙の場合、両言語とも主に食材を表す語彙が多く、なお、両社会の独特な食文化を代表するような語彙が比較的多く含まれている。

ところが、両言語とも男性に関する諺には男性の酒色生活と関連する語彙が比較的多く、それは韓国の諺により甚だしく現れる。特に、韓国の諺の場合、女性に関する諺には婚姻や出産に関わる語彙も見られ、男女の役割区分を明確にしていることが示唆されている。

(3) 器物

器物を表す語彙の場合、両言語とも男女の役割領域の区分に基づいた語彙の構成が目立つ。

まず、韓国の諺の場合、男性に関する諺には、金銭を表す語彙が最も多く、その中でも道楽生活にか

かる費用を表す語彙が多数を占めている。その上、女色をはじめ、葬祭、学問、猟、大工に関わる語彙も現れる。これらの語彙はあくまでも男性の対外的活動を示唆する語彙と見なされる。これに対し、女性に関する諺には、主に家事道具をはじめ、婚姻、出産、貞節に関わる語彙の構成が見られる。

一方、日本の諺の場合、男性に関する諺には、支柱を象徴するような語彙をはじめ、金銭、対面、学問、権威、農作業、酒色を表す語彙の構成が目立つ。これに対し、女性に関する諺には、金銭および身上に関わる語彙がとりわけ多く、その他、家事道具や婚姻、不完全な物などを表す語彙の構成が見られる。ここで一つ特記すべきことは、金銭を表す語彙が男性より女性に関する諺により多く見られることで、金銭や身上に関わる語彙が女性に関する諺の中に多く見られるということは家庭内における女性の経済権の確保を示唆すると言える。このような語彙の構成は韓国の諺には見られない特徴的な点として捉えられる。

3.3. 人を表す語彙

人を表す語彙は、下記の表3のようであり、日本の諺に比べて韓国の諺の方により多様な語彙の構成が見られる。

表3 人を表す語彙 (出現頻度が二つ以上のものは、[] 内にその数を示す)

韓国の諺		日本の諺	
女性の諺	男性の諺	女性の諺	男性の諺
아이 ([9], 子供) / 사람 ([2], 人) / 귀머거리 ([2], つんぼ) / 병어리 ([2], おし) / 소경 ([2], 盲目) / 평안감사(平安監事) ⁵⁾ / 뒷집 노인장 (隣の爺さん) / 종 (奴) / 남 (他人) / 백년 원수 (百年の仇) / 일년 원수 (一年の仇) / 당대 원수 (当代の仇) / 보은아가씨 (報恩処女) ⁶⁾ / 중 (坊主) / 아들 (息子) / 딸 (娘) / 서방 (書房) / 신랑 (新郎) / 영감 (令監) / 집 (妾) / 중매장이 (仲人) / 도둑 (泥棒) / 병덕어미 (ペンドクオミ) / 춘향이 (春香) / 양귀비 (楊貴妃) / 왜장녀 (倭將女: 大柄ではじらいを知らない女)	도둑 ([2], 泥棒) / 고자 ([2], 性不能の男) / 상주 ([2], 葬主) / 기생 ([2], 妓生) / 장사 ([2], 丈士) / 장군 (將軍) / 자식 (子供) / 더부살이 (住み込み者) / 동네머슴 (村の僕) / 머슴 (僕) / 사람 (人) / 양반 (両班) / 아이들 (子供たち) / 노름꾼 (博徒) / 주인 (主人) / 품배팔이 (腕のない障害者) / 술장수 (酒の商人) / 남 (他人) / 어른 (大人) / 당대 원수 (当代の仇) / 기생첩 (妓生妾) / 계집 (妻) / 장인 (丈人 (=妻の父) / 처삼촌 · 처숙부 (妻の叔父) / 의붓딸 (養娘) / 시관 (試官) / 작은서방님 / 강화도령님 / 장비 (張飛) / 궁도련님 / 기생오라비 (妓生の兄) / 판관사령 (半官使令) ⁷⁾	子[5] / 坊主[4] / 他人[3] / 人[2] / 親[2] / 人間 / 女同士 / 男同士 / 敵 / 賢人 / 小人 / 越後女 / 女の髪結い / 黒子女 / 伊勢女 / 田植之女 / 五月女 ⁸⁾ / 良相 / 拙夫 / 夫の譜代の臣 / 仲人 / 論臣 / 丁稚 / 雀遊女 / 命取り / 命の親 / 慰みもの	己れ[3] / 客[2] / 子供[2] / 百夫 / 敵 / 我 / 數金女房 / 七人の敵 / 上州男 / 越前男 / 男の取り上げ婆 / 知恵男 / 尾張男 / 秋男 / 親 / 達者 / にきび男 / 他人 / 大名

注1: 人を表す語彙の範囲内には男女名称に当たる語彙が含まれているが、実に広範囲にわたって様々な形を示しているため、本稿では男女名称に当たる語彙は除くことにする。

注2: 上記の表3に示されている人間類型は、表現の主体となっているものではなく、主体人物と関わりを持っている人間類型が中心となっている。従って、男女名称に当たる語彙とは性質をともにするものであることを断っておきたい。

注3: 「강화도령님(江華道令) / 궁도련님(宮道令)」などは、両方とも「支配階級の男性」を表しており、諺の中では比喩の素材として働いている傾向にある。まず、「강화도령님(江華道令)」とは、「江華という地域に住む若い旦那様」を指し、「何もせずに人生を空しく過ごす怠大事に育てられたため、世相の物情が分からない弱い男」という意味を含んでいる。そして、「작은서방님(削った書房) / 기생오라비(妓生の兄)」などは、「さっぱりした身なりをした男性」を指す語で、「常に身なりばかりに念を入れる男」を嘲る気持ちが強く込められているものとして捉えられる。

まず、韓国の諺の場合、女性に関する諺には、子供をはじめとした家庭内の人物を表す語彙が大半を占めており、その他、障害者を指す卑語に当たる語彙をはじめ、性的相手としての人物や気性と関連する語彙が全般を成している。特に、韓国の女性に関する諺に見られる語彙の中には古典小説の登場人物を表す「병덕어미(ペンドクオミ)」「춘향이(春香)」のような語彙も含まれている。これに対し、男性に関する諺には、血縁および姻族関係にある人を表す語彙をはじめ、道楽生活と関連した人や上下関係にある人物、性不能の男を表す語彙など、女性に比べて、はるかに幅広い人間関係を暗示する語彙が含まれている。ここでも男女の役割領域の区別意識が著しく現れる。

一方、日本の諺の場合、女性に関する諺には、韓国の諺と同様に、子供を表す語彙が最も多く、女性

の気性と関連した語彙や下級階層の人間類型を表す語彙などが見られる。これに対し、男性に関する諺には、一人称代名詞に当たる語彙が首位を占めており、対外的な付き合いを示唆する語彙をはじめ、男性の気性と関連した語彙や上層階級の人間類型を表す語彙などが全般を成している。特に、気性と関連した語彙は男女両方に現れており、両方とも特定地域の人間を表す語彙の構成を示している。

3.4. 時空を表す語彙

時空を表す語彙は下記の表4のようであり、多種多様な語彙が現れていることが分かる。

表4 時空関連語彙 (出現頻度が二つ以上のものは、[] 内にその数を示す)

		韓国の諺		日本の諺	
		女性の諺	男性の諺	女性の諺	男性の諺
時空	自然	오뉴월 서리 ((3), 五六月の霜)/가을 ((2), 秋) /봄비 ([2], 春雨) /비 (雨) /겨울날씨 (冬の天気) /천길물속 (千尋の水底)	벼락 ([2], 雷) /고름(つらら)	秋の空[2]/朝雨[2]/七つ雨[2] /俄か雨/東の空の明かり/秋吹く風/秋の日和/日/月夜の明かり/春の日/水性/岩	秋の空/日/七つ下がり/雨/川の瀬
	時間	삼년 ([3], 三年) /첫날밤 ([2], 初夜) /달밤([2], 月夜)/저녁(夕方) /삼일 (三日) /삼십 (三十歳) /석달 (三月) /밤마다 (毎晩) /날 (日) /밤 (夜) /하루저녁 (=하룻밤, 一夜) /추석 (お盆) /차일 (此日) /여든살 (八十歳) /장날 (市の日)	때 (時) /밤 (夜) /오후 (午後) /날 (日) /십년(十年)/밤낮(昼夜) /보름 (満月) /사흘 (三日間) /세끼 (三食) /한때 (一時) /열다섯 (十五歳)	一生[2]/六十年[2]/節季[2]/夜[2]/七度[2]/常[2]/四十[2] /三十日[2]/百年[2]/後[2] /土用三日/三代/一生/一月/四十五日/若き時/三月/百/五月五日の一夜/三年限り/忙しい時/師走/朝/百/四十/盆/十七/大暑三日/日/豆時/二十/初め/初来/始め/一夜/前/見る間/十五六	時[2]/三年[2]/十三の晩/一度/七度/一生/暇/四十歳/四十分別盛り/二十五六/二十五の晩/二十五の朝/三日/十七八/十方暮れ/七歳/彼岸/三十/四十五/七日/時
	空間	안 ([2], 内) /집 ([2], 家) /정지 (=부엌[2], 台所) /뒷간 ([2], 厠) /골 (谷) /결방 (挾室) /길 (道) /고을 (村) /절 (寺) /밑 (下) /삼십리(三十里) /길아래 (道の下) /제 (峠) /시집 (嫁ぎ先) /신방 (新婚部屋) /밭고랑 (畝間) /문지방 (敷居) /빈방 (空き部屋) /되는 집 (うまいくい家) /안되는 집 (うまいくない家) /마을집 (村の家) /구멍 (穴) /이 방 (この部屋) /저 방 (あの部屋) /혼인집 (婚家) /길갓집 (道端の家) /이웃집 (隣の家) /산 (山) /세발 (三步) /안방 (奥の間) /진 밭 (ぬかるんだ畑)	처갓집 ([4], 妻の実家) /밭 ([2], 畑) /집구석 ([2], 家) /개구멍 (犬穴) /전장 (戦場) /술집 (酒屋) /담벼락 (塙) /밭도랑 (畝間) /산속 (山の中) /집 (家) /한성부 (漢城府) /제청 (祭庁) ⁹⁾ /기생집 울타리 밑 (女郎屋の垣の下) /투전 (博打場) /경상도 (慶尙道) /전라도 (全羅道) /관덕정 (觀德亭) /방앗간 (精米所) /동네 (村) /담 (塙) /만장 (満場) ¹⁰⁾ /길 (道) /남의 집(他家) /울타리 밑 (垣の下) /여기 저기 (あちこち) /삼각산 밑 (三角山の下) /서울 (ソウル) /옆 (隣) /한라산 (韓嶽山) /영 (營) /세물진 (貨物區) ¹¹⁾ /글방(書房)	家[9]/内[3]/傍[2]/城/十里の外/鼻の先/一里/世間/七国/三界/家/數居/富士の山/道/牛の敷/京/門/世界/七分/家庭/外/国/堂/向/こう山/山/跡/行く先/賞/台所/床の間/国/空房/前/上/かり糞/梁/大黒柱/台所/糞	家[4]/横座[3]/外[2]/牢/門口/世/天下/家/天上/こうけ(高家)/三分/町内/傘/唐傘屋/知恵院/提灯屋/門前/座敷/玄関

(1) 自然

自然を表す語彙は、両言語とも女性に関する諺の方により多く含まれており、主に比喩の素材として働いている傾向を示す。

まず、韓国の諺の場合、女性に関する諺には、主に‘気象’や‘節季’に関連する語彙が目立っており、いずれも‘恨み’‘仕返し’‘禍’などのような恐ろしいイメージを含めた語彙として機能している。語彙に示されてる意味合いの面では男性に関する諺に見られる語彙も同様である。

一方、日本の諺の場合、男女の諺の両方とも‘気象’や‘節季’に関連する語彙が全般を占めており、主に変化の激しい天候と関連した語彙をもって変りやすい気性を表しているという共通点を示している。

ところが、語彙の多様性という面では女性に関する諺の方が優位を占めている。

(2) 時間

まず、韓国の諺の場合、女性に関する諺には、‘夜’をはじめ、‘年齢’や‘節句’を表す語彙など、語彙の多様性を示しているのに対し、男性に関する諺には、主に‘時’を表す語彙が全般を成していると言える。

また、女性に関する諺には、‘夜’と関連した語彙がとりわけ多く、これらの語彙の多くは女性の‘不貞’と関わる事柄を示すものとして働いている。特に男女の諺の両方に見られる‘年齢’を表す語彙は、女性に関する諺の中では‘美’に基づく年齢として働いているのに対し、男性に関する諺の中では‘一人前の男’を象徴する語彙として働いているという相違点を示している。

一方、日本の諺の場合、女性に関する諺には、‘一生涯’や‘節句’を表す語彙が相当数を占めており、婚姻を表す語彙をはじめ、女性の多忙な労働活動を示唆する農作業(主に稲作と関連している)の時期を表す語彙や‘性’および‘美’に関する語彙など、実に多彩な語彙の構成が見られる。これに対し、男性に関する諺には、‘年齢’を表す語彙が大半を占めており、それらの語彙はいずれも男性の分別盛りの年齢をはじめ、精神的年齢、身体発育、物あやかりの限度の年齢を示すものである。

(3) 空間

まず、韓国の諺の場合、女性に関する諺には、婚家を含めた‘家’および‘家庭内’の空間、つまり極めて制限された空間を表す語彙が全般を成している。これに対し、男性に関する諺には、婚姻関係や男性の道楽および色遊びに基づいた空間をはじめ、「경상도(慶尚道)/전라도(全羅道)」のような特定地域、官庁、学問などと関連した語彙など、実に幅広い活動範囲を示唆する語彙の構成を示す。

一方、日本の諺の場合、韓国の諺とは対照的に、むしろ女性に関する諺の方により多様な語彙が含まれている。女性に関する諺には、‘家庭内’を表す語彙をはじめ、特定地域、抽象的な空間を表す語彙などが見られる。特に、「七国」「三界」のような抽象的な空間を表す語彙は仏教と関わりを持っており、これらの語彙は女性の従属性を表す語彙として機能している。これに対し、男性に関する諺には‘家’を表す語彙とともに、‘外’を表す語彙が首位を占めている。その他、商売と関連した空間を表す特徴的な語彙も多数見られる。

3.5. 身体を表す語彙

身体を表す語彙としては次のようなものが見られる。

表5 身体関連語彙 (出現頻度が二つ以上のものは、[] 内にその数を示す)

		韓国の諺		日本の諺	
		女性の諺	男性の諺	女性の諺	男性の諺
身 体	頭部	코(鼻)/콧집(鼻筋)/입(口) 얼굴(顔)/눈(目)/귀밑머리 리(三つ編の髪) ¹²⁾	대가리([2],頭)/콧김(鼻息)/뺨 (頬)/코(鼻)/꼭뒤(後頭部の真 中)/눈(目)/귀(耳)/수염(鬍)	目[3]/鼻[2]/髪形[2]/白い歯[2]/歯 /八目/目/黒髪/髪の毛髪/頭/え	歯/口/片 頬/糸目/ 打ち首
	上半身	손([3],手)/배([2],腹) 등(背中)/젖가슴(乳房)	가슴([2],胸)/목([2],首)/주먹 (握り手)	くは/口/面/耳/素顔	背中/小腹/腹
	下半身	밀구멍([2],下の穴)/가랑이 (股座)/아래(下)/처녀불알 (処女の睾丸)/염불(子宮脱)	불알([4],睾丸)/허리([2],腰)/다리 [2],足)/똥구멍(肛門)/발바닥(足の 裏)/다리뼈(足の骨)/마(摩羅)	尻[9]/腰[2]/足の裏/膝頭/おいど /股ぐら/長尻	膝/膝頭/ 腰
	その他	살(肌)/뼈살(骨肉)/오장 (五腸)/등창(背中)の腫れもの/ 똥(糞)	똥([2],糞)/힘줄(筋)/침(唾)/방 귀(おなら)/허파(肺臓)/창자(腸) /오장(五腸)/연주창(癩癧の化膿し たできもの)/염병(染病;腸チフス) /시체(死体)		膚のできもの /居糞

まず、韓国の諺の場合、女性に関する諺に見られる身体語彙は、‘労働’や‘性的嘲弄’‘婚姻’と関連した語彙が全般を占めているのに対し、男性に関する諺に見られる身体語彙は、‘腕力’‘対面’‘威勢’‘資質’‘生殖能力’と関わる事柄を示す語彙が全般を占めている。

さらに、男女の諺の両方とも軽蔑的な要素が含まれている語彙、つまり卑語に当たる語彙が目立つという特徴を示している。女性に関する諺には、主に下半身の中でも‘女陰’を指す卑語が多様に含まれており、いずれも女性に対する性的嘲弄の意味へとつながっているという傾向を示す。これに対し、男性に関する諺に見られる卑語は、性的嘲弄の意味は含まれていない。このような点は男女の性差別的な対立様相の一端として捉えられる。

一方、日本の諺の場合、女性に関する諺の方により多くの語彙が見られることが分かる。

まず、頭部を表す語彙は、男女の諺の両方とも、身体を表す種々の語彙の中でも最も高い比重を占めているもので、語彙の多様性という面では女性に関する諺の方が圧倒的優位を占めている。中でも特に、「歯」「口」のような語彙は、男女共通の語彙であるが、女性に関する諺では、単なる‘美の基準’及び‘禍の元’の意味を表しているのに対し、男性に関する諺では、‘威厳’及び‘実行’の意味を表す語彙として働いているという相違点を示している。

また、韓国の諺と同様に、日本の女性に関する諺の中にも下半身を表す語彙が多く見られるが、‘女陰’を表す語彙が多く見られる韓国の諺の場合とは違って、‘尻’を表す語彙がとりわけ多く見られる。そして、これらの語彙は女性に対する性的嘲弄の意味を表しているとともに、女性の身体的特徴を表している。

3.6. 抽象及び行為を表す語彙

抽象及び行為を表す語彙も数多く現れており、それらをまとめたものが下記の表6である。

表6 抽象及び行為関連語彙 (出現頻度が二つ以上のものは、[] 内にその数を示す)

		韓国の諺		日本の諺	
		女性の諺	男性の諺	女性の諺	男性の諺
抽象 及び 行為	抽象	팔자 ([3], 八字 (運勢)) ¹³⁾ /속 ([2], 性感) /마음속 (内心) /곡한마음 (恨み) /용꿈 (竜夢) /웃음 (笑い) /눈물 (涙) /밥내 (飯の匂い) /나이 (年) /장짜 · 투기 (妬み) /속 (心) /체격 (ふさわしい格式) /웃김 · 부얏김 (腹立ち粉れ) /생각(考え) /두큰넙팔자 (釣瓶の運勢) · 뒤운박팔자 (瓠の運勢) /그루 (基礎) /안인심 (内の人情) /비위 (機嫌) /마련 (胸算) /월 (物心) /복 (福) /집귀신 (家の鬼神)	용 ([3], 欠点) /맘속 (内心) /문벌 (門閥) /욕 (悪口) /글 (書) /용납 (容納) /잘 (恰好) /좋은 일 (良いこと) /망신 (恥) /탈 (変事) /생각 (考え) /요기 (口凌ぎ) 천지 · 돈지/죄 (罪) /풍월 (風月) /염 (簾) ¹⁴⁾ 격 (格式) /상 (相 (=表情)) /힘 (力)	鬼 (4) /女心 (3) /心 (3) /嫉妬 (3) /格気 (3) /大事 (2) /苦楽 (2) /力 (2) /三從 (2) /知恵 (2) /癖 (2) /堅き/七去/一念/賢いの/気の強い/疵/手の業/狼知恵/仕返し/欲/根/妬み/拙き/鼻先思案/話/利発/氏/門開き/命/国の平らげ/地獄の使い/育て柄/魔物/乱の基/命定め/大役/大厄/慎み/美悪/慎み/家の乱れ/操/魂/恋の道/恋/言/離別の基/猿利口/好き/涙/回り気/一途なもの/受け身/知恵/三道楽/賢いの/嗜み/化け物/役目/愛嬌/色/所帯向き/悪い/得/功/七人半の宛がい/禍/父の心/三不去/輪廻の媒/密事/天下泰平/有り合わせ/仏法/お家繁盛/謀/格気/心地/家内安全/楽しみ/仁/寛/恥/柔和/学問/役目/籠の神	色 (2) /心 (2) /氣 (2) /恥 (2) /得/大事/反故/元氣/辞儀/礼儀/一言/嘘/おさまり/志涙/意見/物あやかり/役目/度胸/上恋/礼/女房から
	行為	시집 ([9], 嫁入り) /말 ([4], 言葉) /시집가기 ([3], 嫁入り) /시집살이 ([2], 嫁入り暮らし) /화냥 ([2], 還郷) /화냥질 ([2], 浮気) /서방질 ([2], 間男) /보기 ([2], 覗き) /별이 ([2], 寝ざり) /일 ([2], 仕事) /소박 (疎薄[2]) /웃 ([2], 겇) ¹⁵⁾ /약담 ([2], 悪談) /평계 ([2], 言い訳) /	장가 ([3]丈家) /별초 ([2], 墓の草刈り) /장사 (=초상[2], 葬儀) /추기 ([2], 掘て) /양첩 (兩妾) /출입 (出入) /계집자랑 (妻の自慢) /자식자랑 (子供の自慢) /행사 (行事) /웃농사 짓기 (初めての百姓仕事) /	産 (3) /腕捲り (2) /芝居 (2) /不作 (2) /旅/一人旅/寄付/商談/立ち話/共/長尻/付き合い/盗み勝ち/牛売り/小股走り/発明/介抱/泣く連れ/華節/所帯向き/痴れ笑い/喧嘩/看経/老人の夜歩き/寺狂い/騒動/人間	事/謝罪/物あやかり/笑い連れ/留守/旅/男伊達/小鶏立て

		韓国の諺		日本の諺	
		女性の諺	男性の諺	女性の諺	男性の諺
抽象 及び 行為	行為	차기 (蹴り) / 닷 (せい) / 영덩이 짓 (お尻の振り様) / 순산 (安産) / 살림 (身上) / 본가살이 (本家暮らし) / 단산 (短産) / 해산 (解産) / 개 잡기 (犬殺し) / 절 (お辞儀) / 행실 (品行) / 살인 (殺人) / 물붓기 (水注ぎ) / 내다보기 (眺めること) / 말방귀 (馬のおなら) / 한증 (汗蒸) / 양철구질 (二本の棒をもって臼を搗くこと)	풀베기 (草刈り) / 중년상처 (中年喪妻) / 일 (仕事) / 세수 (顔洗い) / 파장 (市閉め) / 사냥 (猟) / 처가살이 (婿入り暮らし) / 세배 (歳拜: 年始) / 새남 (セナン) / 성묘 (墓参り) / 막치기 (頭突き) / 뺨기 (奪い) / 과거 (科擧) / 명세 (誓い) / 점심의논 (昼食の議論) / 해엄 (泳ぎ) / 뺨치기 (びんた)		

注: 上記の表6に見られる「천지・돈지」とは、「빌어먹던 놈이 천지돈지를 해도 남의 집 울타리 밑을 엮본다(乞食が金持ちになっても人の垣の下を覗く)」という諺の中にペアとして一緒に現れている語彙で、おそらく‘豊かになる’あるいは‘金持ちになる’のような意味で解釈することができるが、国語辞典には載っていないため、意味不明の意味と見なす。

(1) 抽象

まず、韓国の諺の場合、女性に関する諺には、運命と関連した語彙が最も多く、これらの語彙の大半は女性の隷属性を示唆するものである。その他、性的に侮辱された語彙や感情を表す語彙が多数を占めているが、感情を表す語彙の中には陰険な気性を表す語彙がとりわけ多く含まれている。これに対し、男性に関する諺には、対面、家格、学識、風流、格式、思慮などと関連した語彙が全般を占めている。

一方、日本の諺の場合、女性に関する諺には、儒教および仏教と関わる語彙が目立っており、その他、人間の感情を表す語彙も比較的多く見られるが、これらの語彙の多くは‘陰険な気性’を表すものとして機能している。これに対し、男性に関する諺には、対面、威厳、勇気、精神力、我慢、能力、権勢、大胆、責任と関連した語彙の構成を示している。

(2) 行為

語彙に含まれている意味合いの面では、行為を表す語彙においても例外ではない。つまり、両言語とも男性に関する諺の方では、肯定的な意味合いが含まれている語彙が全般を占めているのに対し、女性に関する諺の方では、主に否定的および軽蔑的な意味合いが含まれている語彙が全般を占めている。

まず、韓国の諺の場合、女性に関する諺には、婚姻と関連した語彙が圧倒的多数を占めており、その他、家事、出産、巫俗信仰、そして女性が備えるべき儒教的徳目¹⁶⁾で強調する嫉妬や淫乱のような項目と関わる語彙の構成が見られる。特に、淫乱を表す語彙の中には卑語に当たるものが比較的多く用いられている。これに対し、男性に関する諺には、儒教の冠婚葬祭と関連した語彙がとりわけ多く、農作業をはじめ、猟、腕力、義理、論議、色遊びなど、いわゆる社会活動と関連した語彙が全般を占めているという特徴が見られる。

一方、日本の諺の場合、女性に関する諺には、出産、陰険、感傷的な行為と関連した語彙などが見られる。その他、特記すべきことは、商談や農作業活動などのような社会的な活動と関連した語彙が含まれているということで、このような語彙は韓国の女性に関する諺には見られない特徴的語彙として捉えられる。これに対し、男性に関する諺には、出入りや行動の自由を示唆する語彙をはじめ、おおらかな行為、経済力、名誉と関連した語彙が全般を成している。

4. おわりに

以上、日韓両言語の男と女に関する諺を構成する語彙に見られる男女の対立の諸要素とその格差様相の特徴を考察した。その結果は次のようである。

両言語とも語彙の構成における男女の二元対立が成り立っていることが分かった。つまり、女性に関する諺の中には、家事労働、婚姻、出産、外貌、信仰および思想と関連した語彙が全般を成しているのに対し、男性に関する諺には権威、道楽、体面、名誉などと関連した語彙が全般を成しているという対立の様相が見られる。このような対立は、おそらく男女の性差意識を反映したもので、特に男女の役割領域の二分化意識に基づいて生じるものと考えられる。このような語彙の構成は韓国の諺の方に一層明確に現れているという特徴を窺うことができた。

まず、両国の諺の中には侮辱的な性質を含んだ卑語に当たる語彙がそれぞれ見られるが、韓国の諺の方にはるかに多く見られる傾向にあった。韓国の諺に見られる卑語においての男女の格差は極めて激しい様相を示していた。つまり、女性に関する諺に見られる卑語の多くは、性的に侮辱されているのに対し、男性に関する諺に見られる卑語の多くは、生殖能力や経済的な無能力に対して侮辱されていることが分かった。また、韓国の諺の中には、婚姻と関連した語彙が男女の諺の両方に見られるが、女性に関する諺の方にはるかに多く含まれているという傾向を示していた。特に、それらの語彙の中には‘婚家’と関わる語彙が広い範囲にわたって見られるが、これは女性の男性への隷属および従属を示唆するものとして捉えられる。なお、韓国の諺の中には、信仰および思想における男女の対立も窺える。つまり、女性に関する諺の中には、巫俗信仰と関連した語彙が目立っているのに対し、男性に関する諺の中には、儒教的冠婚葬祭と関連した語彙が目立っているという特徴をも示していた。

ところが、最も特記すべき相違点としては、男女の対立が激しく現れている韓国の諺とは対照的に、日本の女性に関する諺の中では金銭をはじめ、商売や稲作、支柱と関連した語彙など、いわゆる女性の社会性や経済性を示唆する語彙が比較的多く見られるということが挙げられる。

本稿で得られた上記のような結果は、両社会の風土や文化の違いに基づくもので、両社会における男女の地位様相の特徴を示唆するものとして捉えることもできる。

注

- 1) かつて、女性が出かける際に顔を隠すため、頭からかぶった着物の一種をいう。
- 2) 頭髮の乱れを防ぐために額に纏う馬尾毛造りの布で、一般的に既婚の男性が被るものとなっていた。
- 3) 琴・新羅琴・唐琵琶の三つの絃楽器(三絃)と太鼓・大鼓・奚琴・笛、それに二つの鼓笛(六角)を指す。
- 4) 朝鮮王朝時代、十六歳以上の男子が帯びていた牌(名前や年齢、生年の干支を刻んで官庁の烙印をもらう)を指す。
- 5) 朝鮮王朝時代の正一品に属する高位官吏で、今の北朝鮮の‘平安’という地域を管轄していた。
- 6) 韓国の‘報恩’と呼ばれる地方に住む娘を指すが、この地域は棗の産地として有名である。
- 7) 朝鮮王朝時代、従五品に属する官吏の召使いの役割を果たしていた人を指す。
- 8) 「田植え女」と「五月女」とは、陰暦五月に行なわれる田植えを行なう早乙女のことを指すもので、これらの言葉は古くから田植えに女性が重んぜられていた風習(宮城・大井、1983、p.40)に由縁するものと考えられる。
- 9) 葬式の時、墓の周りに設けて祭祀を行なうところをいう。
- 10) 大勢の人が集まったところをいう。
- 11) 婚礼や葬式に使う用品の賃貸しをする店を指す。

- 12) かつては、未婚の男女の場合、髪を長く伸ばし、三つ編みの髪型をしていたが、婚姻するとそれを解いて男性は結い上げた髪型に、女性は後頭部で束ねて簪をさすような髪型にかえることが一般的であった。従って、諺に見られる「귀밑머리를 푼다(三つ編みの髪を解く)」は、女性が正式に人妻になるという意味を表していると言える。
- 13) 「팔자(八字)」とは、人の生年月日の干支、四柱八字を指し、また「四柱」とは、生年月日時を指すものである。一般的に、「팔자기박(八字奇薄)」という言葉をよく使うが、これはほかならぬ不運を意味する。赤松智城・秋葉 隆、「朝鮮巫俗の研究(上)」、(東文選、1991)、p.370。
- 14) 漢詩において、子音の高さを合わせる方法として知られている。
- 15) 女性が中心となって行なわれる集団的な巫俗儀礼の一種である。これは世帯の単位を超えて共同に参加する村の非公式的な祭りで、家庭および共同体の福祉を祈願する。祖先崇拜とは違って、‘굿’の行為は、女性たちが最も「重要な位置を占める。巫女が‘굿’を主幹場合でも、それはあくまでも主婦の権限を代行することにすぎない。韓国に対する研究の初期研究者たちは、韓国社会の家口宗教の二元組織を記述するにあたって、男性の儀礼は威厳のある儒教的なものと描し、女性の儀礼は家神を中心とした精霊崇拜、巫俗、迷信などと記述している。金眞明、「여성들의 전통적 의례생활에 반영된 성차별 이데올로기에 관한 연구(女性たちの伝統的な儀礼生活に反映された性差別のイデオロギーに関する研究)」、「亜細亜女性研究」第27巻、(利花女子大学校女性問題研究所、1988、pp.186-200。
- 16) 「三従之道」や「七去之悪」をいう。女性に最も求められていた儒教の教えは「三従之道」で、つまり女性は幼い頃には父に従い、嫁してからは夫に従い、夫が亡くなってからは息子に従わなければならないという内容を含む。そして、「七去之悪」とは、妻が嫉妬・多言・淫乱・盜癖・無子・不順舅姑・悪疾の七条件に該当することを行なった場合は夫が自分の父母や祖父母の承認を得て、一方的に離縁することできると定めていたことを指す。

主要参考文献

- 赤松智城・秋葉 隆(1991)、「朝鮮巫俗の研究(上)」、東文選。
 ハングル学会(1997)、「우리말 큰 사전(国語大辞典)全2巻」、語文閣。
 金秀眞(1999)、「日・韓両国における諺の対照比較研究-女性に関する諺を中心に-」、広島大学大学院国際協力研究科 修士論文。
 金秀眞・浮田三郎(2002)、「日韓両言語の諺に現れる男女の二元対立の諸相-表現に見られる語彙の構成を中心に-」、「ニダバ」第31号、西日本言語学会、pp.62-72。
 金眞明(1988)、「여성들의 전통적 의례생활에 반영된 성차별 이데올로기에 관한 연구(女性たちの伝統的な儀礼生活に反映された性差別のイデオロギーに関する研究)」、「亜細亜女性研究」第27巻、利花女子大学校女性問題研究所、pp.183-205。
 李基文(1980)、「俗談辞典」、一潮閣。
 宮城栄昌・大井ミノブ(1983、p.40)、「新稿日本女性史」、吉川弘文館。
 尚学図書編集(1982)、「故事俗信ことわざ大辞典」、小学館。
 _____(1986)、「故事ことわざの辞典」、小学館。
 宋在璇(1983)、「우리말 속담 큰 사전(我が語の俗談大辞典)」、端文堂。
 _____(1995)、「女性俗談辞典」、東文堂。